



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月14日

上場会社名 株式会社 関門海

上場取引所 東

コード番号 3372 URL <http://www.kanmonkai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 正

問合せ先責任者 (役職名) 経営支援部シニアマネージャー (氏名) 田淵 広宣 TEL 06-6578-0029

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	3,614	△6.3	△110	—	△160	—	△190	—
25年3月期第3四半期	3,856	—	△166	—	△214	—	△212	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 △190百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 △212百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△20.47	—
25年3月期第3四半期	△24.68	—

平成24年3月期より決算期を11月30日から3月31日に変更しております。これに伴い、平成25年3月期第3四半期と、比較対象となる平成24年3月期の月度が異なるため、平成25年3月期第3四半期の対前年四半期増減率については記載しておりません。当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した1株当たり四半期純利益金額を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	4,499	39	0.8
25年3月期	4,665	253	4.8

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 33百万円 25年3月期 224百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,580	△0.8	140	59.3	75	29.9	△35	—	△3.76

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。連結業績予想の1株当たり当期純利益につきましては、当該株式分割後の発行済株式数(自己株式数を除く)により算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.3「サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	9,609,000 株	25年3月期	9,609,000 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	302,000 株	25年3月期	302,000 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	9,307,000 株	25年3月期3Q	8,614,300 株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融政策や経済対策の効果及びその期待から、円安株高傾向が進み、景気はゆるやかな回復傾向となっております。

その一方、当社グループの属する外食業界は、消費者マインドや企業の外食需要が十分に回復するまでに至っておらず、また、食の安全安心への関心がより一層高まっていることから、消費者が安全かつ低価格なものを求める傾向にあり、その結果引き続き厳しい状況で推移しております。

このような状況のもと、当社グループは、前期からスタートした「玄品ふぐ」事業への原点回帰を柱とした中期経営計画の2年目として、収益体質の更なる確立を図るべく、店舗現場力の強化、新商品の開発、販売促進活動の見直し等、事業全般の収益力強化を実施してまいりました。特に「組織・仕組み」を当社グループの強みとすべく、全社員を対象とした研修を充実させ、本物のおもてなしを提供できる人財を育成することに努めました。

主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」につきましては、平成25年11月に当社として3年ぶりの新店となる「新橋の関」を移転オープンし、新メニューとして燻製ふぐを導入する等、平成25年11月以降の繁忙期及び翌期以降を見据えた事業基盤を構築してまいりました。さらには、閑散期である夏季の営業が比較的好調であったこともあり、順調に推移しております。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における直営店舗数は、前連結会計年度末から1店舗減少し45店舗（関東地区28店舗、関西地区13店舗、その他地区4店舗）、当第3四半期連結累計期間の「玄品ふぐ」直営店舗の売上高は1,970百万円となり、前年同四半期を13百万円上回りました。フランチャイズ店舗数は、前連結会計年度末から7店舗増加し46店舗（関東地区21店舗、関西地区25店舗）となり、フランチャイズ事業に関連する当第3四半期連結累計期間の売上高は、とらふぐ等の食材販売、ロイヤリティ等により434百万円となり、前年同四半期より0百万円減少しました。フランチャイズ店舗における店舗末端売上高は1,069百万円となり、前年同四半期を61百万円上回りました。

「玄品ふぐ」以外のその他の店舗につきましては、以前から業績が悪化していた連結子会社である株式会社だいもんが運営する回転寿司「すし兵衛」において、5店舗のうち4店舗を閉鎖し、収益改善を図りました。また株式会社関門福楽館が運営を行っている「壇之浦パーキングエリア」においては、商品の見直し、顧客満足度向上等に努めましたが、関門自動車道リフレッシュ工事により、約2週間の閉鎖及びその前後の通行量減少に伴う利用者減が響き、売上高が大きく減少しました。その結果、その他の外食店舗の店舗数等は前連結会計年度末から4店舗減少し15店舗となり、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,210百万円と前年同四半期を大きく下回りました。

上記のほか、本部コストの継続的な抑制を行った結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,614百万円（前年同四半期比93.7%）となり、主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の閑散期が長かったことが影響し、営業損失110百万円（前年同四半期166百万円）、経常損失160百万円（前年同四半期214百万円）、さらに「すし兵衛」店舗閉鎖等の影響により特別損失100百万円を計上したこと等により、四半期純損失190百万円（前年同四半期212百万円）となりました。

なお、事業の特性上、繁忙期は11月からとなることから、当第3四半期連結会計期間においては、売上高1,782百万円（前年同四半期比92.6%）、営業利益246百万円（前年同四半期比84.6%）と黒字を確保しております。

当社グループは、主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の季節的変動が大きいことにより、四半期毎の業績に大幅な変動があります。

当社グループは店舗運営事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して166百万円減少し、4,499百万円となりました。これは主に売掛金の増加92百万円、たな卸資産の増加206百万円等の増加要因はあったものの、現金及び預金の減少368百万円、差入保証金の減少62百万円等の減少要因によるものです。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して47百万円増加し、4,459百万円となりました。これは主に借入金の減少51百万円の減少要因はあったものの、買掛金の増加94百万円、未払金の増加42百万円等の増加要因によるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して214百万円減少し、39百万円となりました。これは四半期純損失の計上による利益剰余金の減少190百万円、新株予約権の行使期間満了による消却にともなう減少23百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年11月13日の「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,249,845	881,692
売掛金	157,899	250,814
商品及び製品	1,090,472	1,296,446
原材料及び貯蔵品	14,571	14,785
繰延税金資産	43,134	114,232
その他	261,840	195,762
貸倒引当金	△7,573	△7,402
流動資産合計	2,810,190	2,746,331
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	877,188	859,494
その他（純額）	198,540	180,714
有形固定資産合計	1,075,729	1,040,208
無形固定資産		
その他	6,793	6,233
無形固定資産合計	6,793	6,233
投資その他の資産		
差入保証金	740,828	678,029
その他	68,013	42,180
貸倒引当金	△36,269	△13,933
投資その他の資産合計	772,572	706,276
固定資産合計	1,855,096	1,752,719
資産合計	4,665,286	4,499,051
負債の部		
流動負債		
買掛金	134,393	228,513
短期借入金	1,406,461	1,394,341
1年内返済予定の長期借入金	2,270,893	2,230,277
未払金	294,798	337,687
未払法人税等	42,087	6,215
賞与引当金	21,840	20,855
その他	38,491	42,234
流動負債合計	4,208,965	4,260,124
固定負債		
長期借入金	139,261	140,485
その他	63,776	59,255
固定負債合計	203,037	199,740
負債合計	4,412,003	4,459,864

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	596,896	596,896
資本剰余金	705,893	705,893
利益剰余金	△790,364	△980,907
自己株式	△287,980	△287,980
株主資本合計	224,445	33,902
新株予約権	28,837	5,284
純資産合計	253,283	39,186
負債純資産合計	4,665,286	4,499,051

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	3,856,310	3,614,694
売上原価	1,368,257	1,247,255
売上総利益	2,488,053	2,367,439
販売費及び一般管理費	2,654,845	2,477,778
営業損失(△)	△166,791	△110,338
営業外収益		
受取利息	400	1,293
受取地代家賃	25,173	4,950
受取和解金	53,270	3,514
受取保険金	100	6,335
その他	11,144	2,679
営業外収益合計	90,088	18,772
営業外費用		
支払利息	61,879	54,294
増資関連費用	50,044	—
その他	25,669	14,939
営業外費用合計	137,592	69,233
経常損失(△)	△214,295	△160,799
特別利益		
固定資産売却益	41,275	954
新株予約権戻入益	—	23,553
その他	919	—
特別利益合計	42,194	24,508
特別損失		
固定資産除却損	6,484	—
固定資産売却損	605	181
店舗閉鎖損失	3,027	56,592
減損損失	—	44,021
投資有価証券評価損	2,682	—
特別損失合計	12,799	100,795
税金等調整前四半期純損失(△)	△184,900	△237,087
法人税等	27,679	△46,544
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△212,580	△190,543
四半期純損失(△)	△212,580	△190,543

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△212,580	△190,543
四半期包括利益	△212,580	△190,543
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△212,580	△190,543
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

当社グループは、店舗運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社グループは、店舗運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。